

広報モニターの皆さんからひとこと

広報に望むもの (70代 無職)

これまで、広報モニターというのを知りませんでした。今回も声をかけてもらって、初めて広報モニターのことを知り、会議に参加しています。

ただお知らせを発行するだけでなく、人が集まる場所で宣伝することも広報だと思っていて、コンサートや講演会が開催される時には、まわりの人に声を掛けるようにしています。

広報紙等でいろいろな団体の活動状況を紹介し少しでも応援できるようなことを進めたいと思います。

広報について (70代 無職)

去年から広報モニターをしています。あまり活動的でなく、意見を言うことも控えていた。

今年度は2度の会議に出席していて、いろいろなことを質問したり意見したりしています。任期はあと半年ですが、高齢者にもわかりやすい広報となるよう、いろいろな場面（懇談会など）で広報についても取り上げてもらえたら…

親しみやすい広報は、行政と町民を結ぶ大切な窓ではないかと思う。特にカタカナ語について、一般化していない言葉は極力使わず、言い換えがないものやむを得ず使用する場合は、説明を入れたり注釈をつけるなど、「町民目線」を忘れずに。

広報モニターになってみて (30代 主婦)

自分が広報モニターになるまで、「広報モニター」というものの存在を知りませんでした。

実際、私の周りの人で知っている人は全くといっていいほどおらず、活動も知られていないと思います。

会議に出てみると、広報について詳しく、またすぐく考えていて、他の地域の広報について調べたりしている方もいます。

毎月短い期間の中で、少ない人数で試行錯誤して作成していることを知り、受け身の立場で見ていた広報を「一緒に作る」という考えを持てるといいなと思うようになりました。

もっといろいろな立場の、もっと多くの人意見を聞ける場があるといいなと思います。

6名の広報モニターの方から、モニター活動についての感想と、広報に望むことなどについて伺いました。

広報モニターになってみて (30代 会社員)

子どもが3人いるので、広報モニターになる前までは子どもの記事を中心に広報を読んでいました。第1回目の会議で表紙や掲載写真の無償提供について話し合っ、私たちの意見が広報紙に反映されたことで、広報づくりに携わっているんだと実感しました。今後もいろんなことを話し合いながら、皆さんと「読まれる広報づくり」のお手伝いをしたいと思います。

広報モニターになって (40代 会社役員)

この度、広報モニターになり、早くも半年が経過しました。

札幌から安平町に移住して5年、札幌と安平町の違いを感じつつ、少しずつ生活にも慣れてきました。

この機会に、安平町をもっと知りたいと思います。そして住みやすいまちづくりについて私なりに考えていきたいと思っています。

広報については、私自身、読む場所は決まっていたと感じます。今まで広報はあまり見えない、見ていても決まった場所だけだった方が、広報全体に興味を持って頂けるよう活動していければと思います。

町民の方が安平町をどのように楽しんでいるかなどの声を聞き、「安平町のここが好き」を掲載できるページがあるといい。

広報モニターになって (50代 牧畜業)

会議に参加して、他のモニターの方の意見を聞きながら、この声が広報に反映され、よりよい広報紙になるのはやりがいのある役割だと感じる反面、その責任を重く感じています。

情報を伝えるだけじゃない、次の読むのが楽しみとなる紙面になれば良いと思います。